

三豊市の現状



これまで、職員数、財政、公共施設数と市役所運営に関する現状を報告してきましたが、今回は三豊市の人口構成の現実をご報告します。この状況は、三豊市だけでなく日本の国全体も同じ傾向にあります。現代社会は、経済も国際情勢も情報伝達手段も大きく変化しましたが、何よりも私たちの住む社会に影響を与えているのは人口構成の変化です。

三豊市長 横山 忠 始

50年前は3人に1人が子ども

今から約50年前、昭和30年の三豊市（旧7町の合計）の人口構成から見てみましょう。

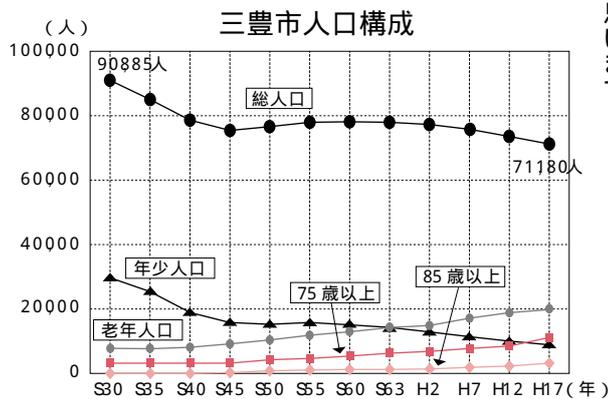
昭和30年というと、太平洋戦争が終わり、10年が経ったところで、三豊市では、財田町と仁尾町を除く5つの町で、それぞれ複数の町や村が合併して新しい町が誕生した時です。

人口約9万人に対し、中学生以下の年少人口（15歳未満）は約3万人もいました。人口比率にして33%。つまり、その頃の三豊市では、3人に1人が中学生以下の子どもたちだったのです。まちは子どもたちであふれていました。

それが昭和45年頃まで急速に減少し、いまだに底打ちしていません。これが世に言う「少子化現象」です。平成17年の最新データでは、年少人口は8,920人率にして12.5

%です。8人に1人しか子どもがいなくなつたというのが現状です。

「3人に1人」が、50年を経過して「8人に1人」になつたのです。これがどれほど大きな変化か、そしてそれが現在も続いていることが、左のグラフをご覧になると分かると思います。



50年で15年も延びた平均寿命

日本では統計上の65歳以上を老年人口といいますが、今の65歳の人を見ていると、とても老年などとは思えない若さなのですが、昭和30年ごろは、そんな感じだったのかも知れません。

その昭和30年に老年人口は7,388人、率にして8.1%です。つまり、その頃の三豊市では65歳以上は12人に1人、他の世代に比べ人口の少ない世代でした。

ところが、日本の高度成長は国民の医療環境や栄養環境を飛躍的に向上させました。その結果、日本の平均寿命は、男性は78.6歳で世界第2位、なんと女性は85.6歳で他国をぶつちぎって堂々の世界一となりました。

昭和30年の平均寿命は66歳ですから、50年で約15年も私たちの人生は長くなつたのです。

少子高齢時代への突入

もう一度、次のグラフで三豊市の人口構成を詳細に見てみると、昭和63年に時代が大きく変化したことに気づきます。この年に年少人口と老年人口がほぼ同数になり、逆転したのです。

平成17年の最新のデータでは老年人口は20,006人で、率にして28.1%、4人に1人以上が65歳以上となりました。これは現在も増え

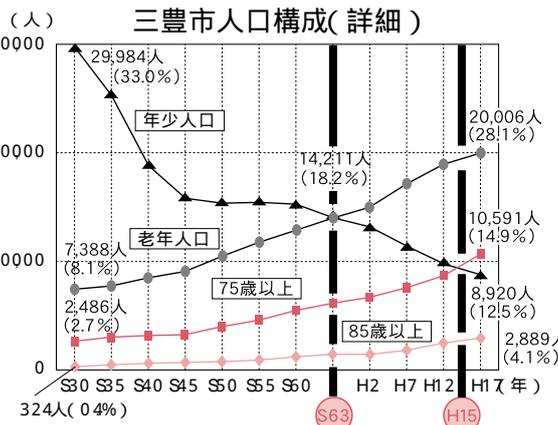
性別	順位	国	平均寿命 (歳)
男性	1位	アイスランド	78.8
	2位	日本	78.6
	3位	スウェーデン	78.1
女性	1位	日本	85.6
	2位	スペイン	83.6
	3位	フランス スイス	83.0

出典:厚生労働省HP 平成16年簡易生命表より

オーバーな表現ではなく、いま私たちは老年人口が年少人口を逆転し、その差が広がり続けるという日本史上初めての時代を生きています。こういう時代は、日本史上いつの時代を探してもありません。ですから、昭和63年以前の考え方を常識としていたのでは、もはや社会は成り立ちません。

超少子高齢社会の到来

さらに三豊市では平成15年に、後期高齢者といわれる75歳以上の人口が、年少人口を上回り、今日



続けており、私たち団塊の世代が70歳になるころには、3人に1人が65歳以上になります。なんと、昭和30年の年少人口と老年人口が正反対に逆転するのです。

**三豊市の未来を決める
ヤングシルバー**

私は、これからの三豊市を決めるもの、それは65歳から後期高齢者といわれる75歳までの人たちの動きだと思えます。

三豊市では、この人たちを高齢者とは呼びません。「ヤングシルバー」と称したいと思います。知識も経験も豊富で体力もあるヤングシルバーの動きひとつで、三豊市が素晴らしいまちになるか、曇り気味のまぢになるかが決まります。このヤングシルバー層が、「市が、みんなが、自分に何をしてくれるんや」と求めるのではなく、「市のために、みんなのために、自分は何ができるのか」と問いかけること、この発想の転換ひとつで、三豊市は輝いてきます。

社会に支えられることを期待するのではなく、自分のやりたい分野で



子育てボランティア養成研修で、ばんそうこのはり方を真剣な眼差しで見つめる受講生の皆さん

**考えよう
そして、立ち上がろう！**

超少子高齢化時代に突入している三豊市は、このヤングシルバー層が立ち上がったかどうかにかかっている、と言っても言い過ぎではないと思えます。



昨年12月に結成された、子どもたちを守る「辻地区ウォーキングパトロール隊」

65歳までは、子どもや家族のためにがむしやりに頑張つてこられたことでしょう。しかし、ヤングシルバーになったら、自分の経験したことや、やりたいこと、好きなことで、楽しみながら社会に貢献できれば最高だと思いませんか。

ヤングシルバーが輝く三豊市こそ、力強く、優しく、人から尊敬されるまちになると思います。

そしてそれが超少子高齢社会を生きぬく力ぎなのです。

ヤングシルバーの山が動くかどうか・・・三豊市発展の大きなキーポイントです。

さあ、ヤングシルバーの皆さん、そしてシルバーの皆さん、ヤングシルバー予備軍の皆さん、市のため、みんなのために、自分にできることは何か、問いかけていただけませんか！